

平成19年5月18日
林野庁

第42回国際熱帯木材機関（ITT0）理事会の結果について

国際熱帯木材機関（ITT0）の第42回理事会が5月7日（月）～12日（土）までの6日間、パプアニューギニア（PNG）ポートモレスビー市において開催され、我が国からは、花形在パプアニューギニア大使を代表として外務省（現地大使館を含む）及び林野庁からなる代表団が出席した。

今回の理事会には、インドネシア、マレーシア、メキシコ、ブラジル、ガボン、ガーナ等の熱帯木材生産国及び日本、米国、スイス、中国、EC等の消費国の政府代表のほか、国際機関、業界団体、NGO等が参加した。

1. 開会式でのステートメント

7日の開会式においては、ルイス・マキャベロ議長（在京ペルー大使）による開会の後、ソブラルITT0事務局長、ソマレPNG首相、ンゴロ・ンゴロ カメルーン 森林・野生動物大臣、ドゥンバ ガボン林業経済大臣、セヴァラナム マレーシア 一次産業省政務次官によるスピーチが行われた。

この中でソブラルITT0事務局長は、年間12百万ヘクタールにも及ぶ全世界の熱帯天然林の減少のうち3分の2が10カ国のITT0加盟生産国において生じていることを指摘するとともに、森林の減少を食い止めるためには熱帯林に求められている地球規模の役割に対する世界全体からの資金の確保と配付のシステムを開発することが必要であり、この意味でオーストラリア政府が森林減少による炭素の排出対策として2億豪ドルを森林保全と熱帯林の持続可能な経営のための拠出を表明したことに多大なる関心があることを述べた。

2. 理事会における主な議題、決議

(1) 次期事務局長の選出

ソブラル現事務局長の任期が本年11月をもって終了し、規定により2期8年以上の再任ができないことから、今回の理事会で次期事務局長を選出することとなっていた。会期最終日に協定に基づく特別投票を行った結果、ブレイザー候補（スイス）とゼメカ候補（カメルーン）に絞られ、最終的にブレイザー候補が辞退してゼメカ候補がコンセンサスにより選出された。

第3代のITT0事務局長に本年11月に就任することとなったゼメカ氏は、現在ITT0事務局長の造林・森林経営担当次長であり、既に15年にわたるITT0事務局長の勤務経験を有している。

(2) 森林に関する国連気候変動枠組み条約（UNFCCC）の議論の状況並びに熱帯林及び国際熱帯木材経済に対する潜在的な影響の報告

国連気候変動枠組条約の最近の議論の進捗状況について報告が行われ、「森林減少・劣化に起因する温暖化ガスの排出とその抑制方策」（Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation: REDD）における ITTO が担うべき役割として、ITTO のノウハウを UNFCCC における REDD の議論に提供すること、ITTO 加盟国の REDD に関する理解の促進や将来の REDD への取り組みにおける能力向上を支援すること、新協定における課題別計画勘定に REDD を含めること等が勧告され、また本年 12 月に開催される UNFCCC 締約国会議において ITTO がサイドイベントを開催することが提案された。

(3) ITTO 目標 2000（PNG ミッションの報告）

ITTO は、ITTO 加盟生産国が ITTO 目標 2000（持続可能な供給源から生産された木材のみを貿易の対象とする）を達成するための問題点と対策を明らかにするため、加盟国からの要請に基づき調査団を派遣してきている。

今回は PNG を対象とした調査が実施され、問題点及び対策が報告された。この中で最も緊急を要するものとして森林の全国調査が挙げられ、その実施を ITTO が支援することについて理事会で決議されたことから、実施に向けての活動資金について我が国を含む多くのドナーが拠出を表明した。

(5) 経済・市場情報、造林・森林経営、林産業各常設委員会に係るプロジェクトへの拠出

今回の理事会で我が国は、「違法伐採及び木材製品の違法貿易の摘発・予防の強化（ガイアナ）」、「コンゴ川流域における環境影響配慮型伐採手法（RIL）普及のための地域プロジェクト（ガボン）」等 11 件のプロジェクト及びフェローシップ・プログラムに拠出することを決定した。

3. 理事会の開催地及び会期

次回第 43 回の理事会については、2007 年 11 月 5 日～11 月 10 日に横浜市で開催されることが確認された。一方第 44 回の開催地としてガーナ（アクラ市）が誘致を表明したが、開催経費について明確化した後、次回理事会で最終的に決定することとなった。